

◆ 謝罪と歴史（再び）

やっと、本音を言ってもらったという感想を持った。

天皇に謝罪してほしい、と発言した韓国国会の議長の話である。率直に意見を言い合うというキャラクターで売っている（？）国民性なのに、やはりここは遠慮していたのだろうか。長らく本音を言ってくれなかったが、ついにそれが出たということなのか。それが彼らにとっての「ゴール」ということが明らかになった。

もちろん、それは文字通り地雷だった。日本国民の多くは困惑し、怒っている人も少なくない。憲法にも書かれた私たち主権者、国民の「総意に基づく国民統合の象徴」、孤独に耐えつつその立場を護り続けてきた存在に、「謝罪せよ」と言っているのであれば、それは自然なことである。

明らかになったのは、これまで日本政府によって繰り返し表現されてきた謝罪を、十分なものとして受け止めてはいないということだ。当然のことながら、謝罪という行為の成否は、謝罪される側の受け止め方如何によって決まってしまう部分が多い。そうだとすると、これが彼らの本音だというのであれば、いままでの謝罪にはほとんど意味がなかったということになる。

日韓関係はそこまで悪化しているのかと心配する人も両国に多かったようだ。そして両国の様々な立場の政治家から、事態を收拾しようとして発言がされていったが、その試みじたいが事態をさらに悪化させているという悪循環もこれまでの歴史認識の対立をめぐってよく見られるとおりだった。当面の事態の沈静化だけが目的となって、議論を深め、問題の本質を明らかにすることをしてこなかったからなのだと思う。

だが冒頭に書いたように、ここまで言うようになったというのはむしろ前進なのではないかという感想を私は持つ。その要求を私たち日本の国民が受け止めるかはまずおいて、もし彼らが本当に心から思っていることを言ったのであれば、それはそれで両国のコミュニケーションの前進として評価するべきなのではないか、ということである。

思ったことを隠さず相手にぶつけ、本音の議論をして相手の懐に飛び込む、というコミュニケーションは、もちろん一つのやり方である。日本にだってそうした人物がヒーローになるような物語も多い。そうした性格を持っていながら遠慮し、逆にこちらからの何らかの忖度を待っていたというのであれば、それこそ複雑怪奇だった。直情径行のキャラクターに隠された遠慮がちな本音があるのだとすれば、相当に面倒くさい相手だということになる。

とはいえ、それがこれまでできないでいたというのは、やはり天皇という存在が彼らにとっても重いからだろう。もしかするとだが、そう発言するのをこれまでためらっていたのだとすれば、その重さを十分に知っているということなのではないか。むしろ私たちのほうにとってこそ、天皇の地位は憲法のはじめに書かれていることもあり、その存在が当たり前になってしまっている。

特に、その存在が道徳的な領域に深く関わっているということも重要なのだろう。それも彼らはよく分かっているのではないか。国民に選ばれた議員によって選ばれたという意味では、総理大臣もまた私たちの代表たるべき存在ではあるのだろうが、彼らにとってはそうではない、ということになる。議員たちと違って、天皇というのは私たちが選挙によって気軽に選べる存在ではない。だからこそ、彼らは「天皇に謝罪して欲しい」と言ったのかもしれない。

そして、すでに言葉は放たれてしまった。「天皇に謝罪して欲しい」というのが彼らの本音なのであれば、私たちはこれに応答するべきではないか。謝罪をするべき、と言っているのではない。むしろこれを説明のチャンスと考えるべきなのではないだろうか、ということである。「言語道断」としてコミュニケーションを拒否するのではなく、「それはできない」と答え、日本の敗戦以降の国の成り立ちを説明する機会とすべきなのではないか。

近代に入って以降、世界中で様々な王政が消えていったが、それでも日本では、天皇という古代に由緒を持つ存在が現在まで残った。日本文化におけるその根深さは彼らもよく知っている。ただその具体的な内実は、外からは理解しにくいはずである。

特に戦後社会においては、秩序の維持・統治、富や資源の分配に関わる側面、つまり政治的・経済的機能はかなりの部分で喪われていること、それでいて「国民の統合の象徴」という存在として維持されているということは理解されにくいはずである。そういった意味で、「象徴天皇制」は、近代と現代の歴史を比較的安定させながら繋げるかなり重要な発明であること、このあたりについてはどうなのだろう。

すでに天皇という存在は近代的な諸制度に適応しているというだけでなく、むしろ時にその不備を補完することもある存在だ。今回の歴史問題は、それを彼らに対して説明する、そのためにも自分たち自身で考え直す、絶好の機会なのではないかと考えるのである。